

04 Close-up Seminar 個性いろいろ!北星ゼミ

「民事訴訟法」をテーマに
調べて・考えて・話す力を養う

経済学部 経済法学科 民事訴訟法ゼミ

05 グローバルなマインドとスキルを磨き
多文化共生社会をリードする存在に
言語教育部門 英語副専攻ゼミ

06 OB&OG インタビュー／卒業生は、いま。

すべての人が生きやすい社会のために
スポーツの力を役立てたい
テフ卓球 日本代表 木村 亜美さん

07 先生たちのその素顔

社会福祉の未来を研究者の視点で追究する
社会福祉学部 社会福祉学科 畑 亮輔 准教授

08 HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ

- コラボスイーツ「北星コーンサンド」販売中!
- 開学60周年記念ワイン名称とラベルデザインが決定しました!

まちがいさがしクイズ

北星学園大学オリジナルグッズが当たる!



02-03

特集：北星で輝く若手研究者 知の未来を切り拓く

文学部 英文学科 准教授 アンドレア・タン 先生

経済学部 経済法学科 准教授 南 ホチヨル 先生

社会福祉学部 心理学科 専任講師 高橋 あすみ 先生

短期大学部 英文学科 専任講師 林 晋太郎 先生

知の未来を切り拓く

北星学園大学では、優れた研究を行う若手研究者が多数活躍しています。

柔軟な発想とチャレンジ精神で挑む研究テーマは多種多彩。学生たちを知の喜びへ誘う4名の先生をご紹介します。



なぜ英語に自信を持ってないの？ 日本のバイリンガリズムを考える

文学部 英文学科

准教授 アンドレア・タン 先生



Profile

シンガポール出身。英国バンガー大学教育学部非常勤講師、関西学院大学総合政策学部講師、岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム准教授を経て、2022年より現職。

仕入債務は信用の裏返し？ 日本ならではの企業金融に着目

経済学部 経済法学科

准教授 南 ホチヨル 先生



Profile

韓国釜山市出身。2019年九州大学大学院経済学府 経済工学専攻 博士課程修了。九州大学経済学研究院 助教、北星学園大学経済学部経済法学科専任講師を経て、2022年より現職。

日本の英語教育の現状と課題とは

日本の学生は義務教育で英語を学んできているのに、自分がバイリンガルだと自負している人はそう多くはありません。自分をバイリンガルだと認識している学生もいますが、私と話す時は英語でコミュニケーションできるのに、どこか自信なさげで、「自分は英語が話せない」と思い込んでいる学生も多くいます。非英語圏の多くの国の教育現場では、今や「英語を」学ぶのではなく、「英語で」専門分野を学ぶ「EMI(English Medium Instruction)」が増加傾向にあります。そこで私は日本の大学におけるバイリンガリズムやEMIプログラムの現状および課題に着目しています。

多言語・多文化社会で自分ができることを考えてほしい

初めて日本に来た当時、日本語が話せなかったのですが、親切的な日本人にたくさん出会い、言葉を越えた心の結びつきを実感しました。本学はさまざまな留学の機会があり、英語の習得や海外留学を目指す学生もたくさんいます。でも、自分のすぐそばにいる外国人や異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションやサポートのあり方にも目を向けてほしいのです。外国にルーツを持つ学生にも、日本人や他文化の人々とのコミュニケーションを向上させる方法を考えてもらいたいです。バイリンガリズムに関する授業を通して、国籍を超えてお互いに支え合い、共に生きていける社会のために、一人ひとりが何ができるのかを考えるきっかけになればと思います。

日本特有の企業金融「仕入債務」を研究

商品を仕入れて後日精算する「仕入債務」は短期負債の一種で、一般的には短期負債が多いほど資金繰りが良くないとみなされます。ところが、日本の企業は他の先進国と比べて仕入債務の水準が高いのです。この20年間、低金利政策やサプライチェーンのグローバル化によって仕入債務がやや減少していましたが、最近の物価上昇や利上げ、生産拠点の国内回帰などに伴い、その重要性が顕在化すると予想しています。日本古来の商売哲学「三方よし」が近年のコーポレート・ガバナンスや企業の社会的責任(CSR)、SDGsなどで再現されているように、企業間の信用に基づく仕入債務が脈々と受け継がれている日本の企業金融は、研究対象としてとても興味深いと感じています。

人生は掛け算。経験の数だけ豊かな自分になれる

企業金融におけるお金の流れを学生にも体験してもらうため、2年生のゼミでは学園祭で模擬店を出店しています。学生に自覚してほしいのは、人生は掛け算であり、大学はそれをとことん経験する場だということ。例えば2が与えられたとき、自分が1なら残るのは2(=自分×2)、自分が2なら4になります。でも自分がゼロならずっとゼロのまま。だからこそ予習と復習を通して授業を自分のものにして、「1以上」の存在になってほしいのです。本学ほど多様な国籍の専任教員が在籍し、これほど積極的に学生と交流している大学は、全国でもそう多くはありません。この環境を活かして豊かな経験を重ねてほしいと思います。

※QRコードから著書・論文などの教員情報をご覧ください。



国内で類のない 「有名人の死に伴う心のケア」を研究

社会福祉学部 心理学科
専任講師 たか はし 高橋 あすみ 先生



Profile

北海道北見市出身。2015年筑波大学人間学群 心理学類卒業。2021年筑波大学大学院 人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 博士課程修了。北星学園大学文学部(学習サポートセンター)助教を経て2023年より現職。

■自殺を研究テーマに、近年は有名人の死にも着目

高校生の時に自殺に関する報道で「自殺は個人の勝手」というコメントターの発言に憤りを覚え、学部時代から自殺を研究テーマとしてきました。大学院以降は大学生向けの自殺予防プログラムの開発に取り組み、現在はパッケージ化による全国への普及を目指しています。コロナ禍以降は有名人の自殺報道が増え、その後の自殺を誘発しかねないメディアのあり方が問われていますが、報道によりショックを受けた個人に対するケアはほとんどありません。そこで国内の先行研究がない「有名人の死に伴うグリーフケア」に着目し、共同研究をスタートしました。将来的にはメディアと協働して自殺予防体制を構築したいと考えていますが、こちらは数十年かかるライフワークになりそうです。

■人生を見失わないために、対話できる環境づくりを

自殺を防ぐ上で大切なのは「対話」。自殺について話せない環境では、死にたいと思っている人はもちろん自死遺族にとっても辛く、自殺対策も進みません。死に直面した時に人生を見失うことがないよう、対話できる環境づくりに研究を役立てることができればと願っています。講義やゼミで自殺について話すこともありますが、学生によっては深刻な影響を受ける可能性もあるため、慎重に扱うようにしています。自殺に関する情報というより、人によっては一生考えることもないテーマに向き合う経験を、思考の幅を広げるきっかけにもらえればいいですね。

言語を操る人間の知性に迫る 「理論言語学」

短期大学部 英文学科
専任講師 はやし しん たろう 林 晋太郎 先生



Profile

北海道札幌市出身。国際基督教大学教養学部語学科卒業。横浜国立大学環境情報学府 情報メディア環境学専攻 博士課程修了後、三重大学教養教育機構特任教授、南山大学人文学部人類文化学科講師を経て、2021年より現職。

■言語に宿るサイエンスとしての美しさ

私たちが日常的に話す言語は、脳内のどのような仕組みが関係しているのでしょうか?「すみません」という表現は謝罪や感謝、依頼など複数の解釈ができますが、私たちが瞬時に意味を理解できるのはなぜでしょうか?理論言語学は、言語を話す人間のインテリジェンスを問い続ける学問です。大学1年の必修科目として履修した当時は難解すぎて投げ出したくなったのですが、3年生になって再度取り組んでみると、問い・仮説・検証を繰り返して答えを導き出す面白さと、サイエンスとしての美しさに魅了されました。当たり前だと思い込んでいた事象に「なぜ」と問いかけ、答えを追求めるプロセスこそ学問の醍醐味だと気づいたのです。

■答えを導く思考のプロセスを身につけてほしい

私が担当している「日英言語比較」は、理論言語学の枠組みで日本語と英語を捉える講義です。ただ違いを知るだけでなく「なぜ違いがあるのか」という問いを論理的に思考し、そこからしか導き出せない答えに気づいた時、学問の喜びを実感できることでしょう。情報過多の現代、ネット検索だけで物知りになった気分になっても意味がありません。学生にはぜひ与えられた情報を整理し、筋道を立てて思考し、結論を出すスキルを身につけ、自分の意見や主張を明快に述べられる大人になってほしいと思います。高校までの学習とは異なる講義に戸惑う学生も多いようですが、短大の限られた時間の中で真剣に学びと向き合う熱意に感服しています。

経済学部
経済法学科
民事訴訟法ゼミ



なが や ゆき 先生(左)

経済学部 経済法学科3年

やまもと まこと 山本 真紘 さん(右) (ゼミ代表)

札幌平岡高等学校 出身

「民事訴訟法」をテーマに調べて・考えて・話す力を養う

民事訴訟法の重要論点について学習する

長屋ゼミが扱う「民事訴訟法」は、個人間の紛争を解決するための訴訟に関する法律です。六法の中でも難解とされていますが、交通事故や名誉毀損の賠償請求、債権回収や相続などの民事裁判に関わる法律なので、知っておくと役に立つこともありそうです。

ゼミでは専門書を読み解き、報告者が内容をまとめて報告。質疑応答を経て具体的な設例に解答し、重要論点への理解を深めていきます。初めて法律を学ぶ学生にとってはわからないことだらけですが、疑問を放置しないのが長屋ゼミ。「質問しない人は一発芸」というルールを課せられ、焦って手を挙げていくうちに、質問が苦になくなります。ちなみに長屋先生いわく「今まで一発芸を披露した学生はいません」とのことです。

質問が習慣になると、報告者もスムーズに答えられるよう、事前に調べることが習慣になります。調べるのが習慣になると、判例・学説の考え方を理解し、重要論点を押さえたレジュメが作れるようになります。そして報告や設例演習を重ねることで、自己の見解を組み立て、それを論理的に主張できるようになります。

ゲーム気分で考えを練り、論理を組み立てる面白さ

ゼミ代表の山本さんは宅地建物取引士の資格取得を目指しており、民事訴訟法を実践的に理解したくて長屋ゼミを選択したそうです。「もしも自分がこの事例の状況になったらどうするか、訴訟で勝つためにどんな論理を組み立てるか、考えを練るのはゲームをしているようでとても面白いです。レジュメ作成を通して知識が蓄積され、質疑応答を通して発言力が養われていると思います」と、ゼミの手応えを感じているようです。

「大学対抗法律討論会」はゼミの学びの集大成

「大学対抗法律討論会」とは、道内外大学の法律系ゼミが民事法に関わる事例問題について議論する討論会です。毎年12月に開催されており、長屋ゼミは毎回参加しています。事前に出題される問題に基づき、弁護士として原告または被告の立場から主張を構成し、期日までに書面を提出。当日は事前に交換した書面をもとに議論を展開します。討論終了後は各大学の先生から講評をいただきますが、長屋ゼミの学生はいつも高い評価をいただいています。

これまでの出題は民法の問題でしたが、今年度は初めて民事訴訟法の問題が出題され、長屋ゼミとしては願ってもないチャンス。山本さんは「必要な判例や学説を抜かりなく準備し、普段ゼミでやっていることを完璧に仕上げて本番に臨みたい」とやる気十分。長屋先生も「自分で調べて考えて論理を組み立てる力がついているはず。自信を持ってチャレンジしてほしい」とエールを送りました。



2019年度大学対抗法律討論会のような。北海学園大学の法廷実習室で、本物の裁判さながらの緊迫した議論が繰り広げられました。



年度によっては全国民事訴訟法合同ゼミや道外大学の法律系ゼミとの合同ゼミなどに参加することもあります。



普段のゼミで培ったディベートスキルは就活でも大活躍。対話の面白さに目覚めて営業職に就く学生も少なくありません。

北星学園大学では、各学科で2～4年の学年ごとにゼミを開講しています。
専門分野をアカデミックに探究したり、仲間とともにキャンパスを飛び出したり、テーマもスタイルも多種多彩。
その一つひとつに、大学ならではの学問の醍醐味が凝縮しています。

言語教育部門
英語副専攻ゼミ

グローバルなマインドとスキルを磨き 多文化共生社会をリードする存在に

過去のプロジェクトの
学生レポートを
公開しています。



社会福祉学部 共通部門 教授 ^{にしはら あき} 西原 明希 先生(左)

社会福祉学部 心理学科4年 ^{すずき りん たろう} 鈴木 凜太郎 さん(右) **ゼミ代表**
札幌新川高等学校 出身

海外との協働プロジェクトを企画・実践

北星学園大学では、自身が所属する学部学科専門課程に加えて、興味のある学問分野を学べる「副専攻制度」を導入しています。「英語副専攻」は英語を学ぶのではなく、「英語で」学ぶカリキュラム。海外の人々と協働でプロジェクトに取り組み、将来グローバルなビジネスシーンで活躍できるマインドとスキルを磨きます。英語副専攻を受講するには、2年前期に行われる選抜試験にパスしなくてはなりません。副専攻を受講すると履修単位が増えるうえ、英語副専攻は英語そのものを学ぶ授業ではないため、英語の自主学習も含めて常に学び続ける意欲が問われるのです。

オーストラリアやインドネシアとのコラボ企画が実現

2年後期からはオーストラリアのグローバルスキル講師とのオンラインセッションがスタート。グローバルビジネスで求められるコミュニケーションや業務進行のスキルを肌で学びます。3年次からは海外の学生や教員との協働プロジェクト「COIL(Collaborative Online International Learning)」がスタート。オーストラリア・シドニー大学の教員陣とのオンラインセッションを企画・実施しました。さらにこの企画が縁となり、今年1月に同大学教員・ローリングス先生を招聘し「多様性とインクルージョンをテーマにした交流プロジェクト」が実現。4年次にはインドネシア・マラナタクリスチャン

大学と一か月間協働し、両大学混合チームによる「SDGsと社会貢献をテーマにしたコラボレーション」のプレゼンテーションを実現させました。

卒業後も海外とつながり、社会に貢献していくために

「他学科のメンバーには自分にはないアイデアや視点があってワクワクします。主専攻と併せて2つのゼミ活動は大変だけど、履修する価値は十分です」と語るゼミ代表の鈴木さん。ローリングス先生と出会って「教員になる」という目標が生まれ、同じく教員を志すマラナタ大学の学生と出会い、「日本の教育の構造を変えたい」という夢が明確になりました。「COILの目的は5年後も海外とつながる関係を築くこと。国境を越えて夢を語り合い、それぞれが夢をかなえた後も協働して社会貢献を実践してくれればいいですね」と西原先生。現在ゼミメンバー17名のうち1名がオーストラリアに留学中。今後も鈴木さんを含む6名がインドネシアやスペイン、アメリカなど世界各国へ、派遣留学などで海外へ渡航予定です。卒業生の中にも世界的企業のグローバルリーダー職や英語圏を対象とするシステムエンジニアなど、英語副専攻の学びを活かして活躍する人がたくさんいます。異文化コミュニケーションの学びは、外国人に限らず性的少数者、障がいをもつ方々、またそれだけではなく多様な背景を持つ人々との関係を築くうえでも役立つはず。英語副専攻で学んだ学生たちが多文化共生社会のリーダーとして活躍することが、西原先生の願いです。



今年1月のローリングス先生とのオープンセッションのようす。滞在中に約200名の学生や卒業生と交流することができました。



社会人基礎力グランプリ全国大会での準大賞の受賞をきっかけに、日本グローバル人材育成教育学会での発表の機会をいただきました。



ゼミでは少人数で活発に意見を述べ合います。英語での表現力や思考力が磨かれ、コミュニケーション力が鍛えられます。



OB & OG interview 卒業生は、いま。

すべての人が生きやすい社会のために スポーツの力を役立てたい

先天性の感音性難聴を持つ卒業生の木村さんは、会社員として働きながらデフ※卓球選手として活動しています。7月には台湾で開催された「世界ろう者卓球選手権大会」に日本代表として出場し、女子団体と女子ダブルスで2冠に輝きました。次の目標は、2025年に東京で開催される聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」での4冠獲得。「世界一になりたいという思いが原動力」と語る木村さんにお話を伺いました。

※デフ (deaf) : 聴覚障害者

デフ卓球 日本代表

木村 亜美 さん

北星学園大学 文学部
心理・応用コミュニケーション学科
卒業 (2021年3月)
※札幌龍谷学園高等学校 出身



団体とダブルスで2冠を獲得した女子チーム。
試合も国際交流も楽しめて大満足！



ペアを組んだ亀澤理穂選手とともに表彰台へ。
夢見た金メダルの重みは格別です。



会社員と卓球選手とコーチ、三足のわらじで奮闘中

4歳の時、兄姉の影響で卓球を始めました。強豪高校に進学したもののなかなか結果を出せず、やめたいと思った時期もありましたが、2年の冬にオープン大会で初優勝。勝つために努力することの楽しさを実感し、大学入学後はクラブチーム「札幌Unity」に所属して卓球を続けてきました。平日は仕事が終わった後に3時間ほど練習し、土日は母校の札幌龍谷学園高校の女子卓球部でコーチを務めています。

2025年デフリンピックの認知度向上と4冠を目指して

デフ卓球を始めたのは大学時代。聴覚障害者としてバドミントン日本代表を目指す同期と出会い、デフリンピックを知ったことがきっかけです。卓球は打球音を聞いて球の回転などを判断するのですが、デフ卓球は補聴器を付けないルールのため、音を聞き分けることができません。健聴者の卓球にはない難しさがありますが、球を打つ感触や筋肉の使い方を意識する練習を積み重ね、今年2月の全国ろうあ者卓球大会で優勝。日本代表に選出され、7月の世界選手権で2つの金メダルを獲得できました。その一方、女子シングルスはベスト8、混合ダブルスは1回戦敗退と悔しさが残る結果に。「世界一になりたい」という気持ちに火がつかしました。

日本におけるデフリンピックの認知度は低く、2025年の東京開催を知らない人が大半ではないでしょうか。私の活動を通してデフリンピックを多くの方に知っていただき、4冠を獲得して次世代の礎になりたいと強く願っています。

学生生活を支えてくれた先生や友人に感謝したい

私は左耳に人工内耳を装着しており、ほとんどの日常会話が可能です。大学では先生に集音マイクをつけて講義をしていただいたり、ボランティア学生のノートテイクやアクセシビリティ支援室※に手厚くサポートしていただきました。手話サークルにも所属して手話を学び、デフ卓球の仲間と日常会話を楽しめるまで上達しました。学生生活を支えてくれた先生や友人たちには感謝しかありません。

私の夢は、すべての人が生きやすい社会に貢献すること。健常者と障害者が相互理解を深め、心のバリアフリーを実現するために、スポーツを通じてお役に立てばうれしく思います。

※アクセシビリティ支援室：障害やその他の理由で困難を抱える学生が安心して学生生活を送れるよう、個別にサポートを行う学内機関。

Featured Faculty Member

先生たちの その素顔

社会福祉学部 社会福祉学科 はた 焔 りょう すけ 亮輔 准教授

PROFILE

兵庫県神戸市出身。2008年大阪市立大学大学院生活科学研究科 総合福祉科学コース前期博士課程修了。2011年大阪市立大学大学院生活科学研究科総合福祉科学コース博士課程満期退学。独立行政法人 科学技術振興機構社会技術研究開発センターを経て、2012年北星学園大学社会福祉学部福祉臨床学科専任講師に着任。2015年より同大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻(修士課程)科目担当。2023年より現職。



社会福祉の未来を 研究者の視点で追究する

■研究者としてソーシャルワークに働きかける

私が大学に進学する頃、社会は就職氷河期真っただ中。社会福祉学を専攻した背景には「将来安定して働けよう」という思いと、人への強い関心がありました。福祉は人間の生活そのものであり、人を総合的に学べる学問だと思ったのです。

博士課程に進んだ頃、生活保護の現場を知るため、日雇い労働者の街と呼ばれた大阪のあいりん地区でケースワーカーとして働きました。そこにはさまざまな事情を抱えた人々がいて、それまでの私が知らなかった多様な人生がありました。知らないことはどんなに想像してもイメージできないけれど、事実を知ることによって相手を理解して寄り添い、支えるための方法や社会のあり方を考えることができます。私は研究という手法を用いてソーシャルワークに取り組み、知見を社会に還元していくことが自らの役割だと考えていますが、この経験は、研究者とソーシャルワーカーの両視点を得るきっかけになったと思います。

■問題意識とアクションで社会福祉の未来を変えよう

厳しい労働環境や給与のイメージなどが影響し、福祉業界の人材不足は極めて深刻です。税金の投入による処遇改善も考えられますが、国民としては「税負担は増やしたくない」「でも家族だけで介護するのは無理」というのが本音でしょう。しかし福祉人材の不足が続けば、国民自身が望まなくとも福祉の多くが家族に依存したものになってしまいかねません。

福祉は国民がつくるもの。福祉を学ぶ者だけでなく、国民全体が福祉に関心を持ち、目指すべき福祉のあり方を自分たちで考えていかなければなりません。今春新設された社会福祉学科は、個人や家族(ミクロ)、地域(メゾ)、社会(マクロ)という多次元の視点から社会福祉にコミットするソーシャルワーカーの育成を目指しています。学生には社会に対する問題意識と働きかける意志を養い、社会福祉の未来が少しでも良くなるように行動を起こせる大人になってほしいですね。すぐに社会を変えることは難しいけれど、小さなアクションを積み重ねていくことで、社会はきっと良くなると信じています。



子どもたちと朝のラジオ体操に参加。地域に見守られて子どもが成長できる環境に感謝です。



趣味は車とドライブ。忙しい時でもハンドルを握るとリフレッシュでき、考えがまとまります。



本学WEBサイトコンテンツ「研究者ストーリー」で焔先生のインタビュー動画を閲覧できます。
<https://entry.hokusei.ac.jp/scholar/hata/>





TOPICS

経済学部 鈴木ゼミ×奏春楼×北海道おみやげ研究所
コラボスイーツ「北星コーンサンド」販売中！

4月25日、経済学部経営情報学科 鈴木ゼミと札幌市内の「スイーツ&カフェ奏春楼」、商品開発支援機関「北海道おみやげ研究所」(株)山ト小笠原商店、(株)エルアイズが共同開発したスイーツ「HOKUSEI CORN SAND 北星コーンサンド 幸せのつぶつぶはさんでみた」(以下北星コーンサンド)が発売されました。

北星コーンサンドは、北海道産のフリーズドライコーンとホワイトチョコレートサンドしたスクエアクッキー。アイデア考案からゼミ生が参加し、試作と試食を繰り返して作り上げた自信作です。新千歳空港内ショップやオンラインショップのほか本学大学生協でもご購入いただけますので、ぜひご賞味ください。

HOKUSEI CORN SAND
北星コーンサンド
幸せのつぶつぶはさんでみた

価格：1箱5個入 980円(税込)
販売店：奏春楼本店、新千歳空港 スカイショップ小笠原、奏春楼ネットショップ、スカイショップ小笠原ネットショップ、北星学園生協



サクサクコーンとミルクシーなホワイトチョコ、口どけの良いクッキーが北海道らしいハーモニーを奏でます。

開学60周年記念ワイン
名称とラベルデザインが決定しました！

北星学園大学では、昨年開学60周年を迎えたことを記念して、オリジナルワインの醸造プロジェクトを進めています。醸造を手がけるのは、日本を代表する醸造家、ブルース・ガットラヴ氏。北星の「星」をイメージした白のスパークリングワインは「+sparkle(スパークル)」と名付けられました。「sparkle」(きらめき、輝き)は、北星の新しい未来を照らす希望そのもの。このワインを手にとってくれる人に多くの良縁ときらめきが訪れることを願い、「+」を添えました。

4月には本学関係者を対象にラベルデザインを公募。厳正な審査の結果、心理・応用コミュニケーション学科4年 浅井萌々香さんの作品に決定しました。「+sparkle」は2024年春に完成予定です。

※「+sparkle」は本学のご寄付への返礼品となっており、一般販売の予定はございません。



スパークリングワインの白い泡を夜空にきらめく星々に見立てた、「Shine like stars in a dark world」を想起させるデザイン。本学に関わるすべての方々の人生が光り輝くものでありますように。

北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

まちがいさがしクイズ

北星学園大学の構内を紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の5個の間違いを探してください。Webやハガキで応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス！

[今号のまちがいさがしスポット]

体育館(羽球部)

地下1階、地上3階建ての施設です。アリーナやフィットネスルーム、ランニングデッキなどを備えています。今回のまちがいさがしスポットは羽球部活動中のメインアリーナです。羽球部の活躍はWebコンテンツ「サークルStory」にて紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

【サークルStory】<https://entry.hokusei.ac.jp/starchannel/>



★応募要項

下記応募フォームまたはハガキにて以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

①問題の答え(まちがい5個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先：〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係

■応募締切日：2023年10月30日(月)必着

■応募フォーム：https://www.hokusei.ac.jp/hokuseicom_quiz/



★正解発表

「HOKUSEI@COM」36号(2024年1月発行予定)に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中から厳正なる抽選の上、当選者を決定いたします。

※当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

前号の
正解



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行／広報委員会

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

TEL 011-891-2731(代表)

URL <https://www.hokusei.ac.jp>

E-mail koho@hokusei.ac.jp



本誌制作に伴う取材・撮影は、新型コロナウイルス感染予防策をとった上で実施しています。

